

「おかげさま通信」 第6号



後列左から台湾からのラッチ、アメリカからのジョンと編集のツヤコ、研修性のみほちゃんと

農の道 ～出会いと雑感～ 高柳功

2013.7.12

毎月1回のおかげさま通信でしたが、本業の仕事も忙しく、またそんなに急いで通信をつくることもなからう、と隔月で発行しようと言うことになりました。通信担当のおもツヤコも畑に忙しい日々です。思ったより畑のお世話に手間がかかり、間に合わないほど草も生えてしまっているようです。

農家は忙しいと世間からよく言われますが、そのわけの一つが、天候や育ちは人間の都合でままたならないことです。

農業は自然の摂理の上に成り立つ仕事です。今年は梅雨が早く上がってしまい干ばつ気味ですが、人間の都合で天候を変えることはできません。工業は、困った場で、人間の計画通り仕事を組み立てれば予定通りできるでしょうが、農の仕事はそうはいきません。雨も降るし、風も吹きます。そうすると予定の仕事通り、と言うわけにはいきません。

先日新規就農の仲間が来て、友達がお手伝いしたいと3人の娘さんが来ました。午前中はトマトの収穫やらバック詰めなどしましたが、午後はごま畑の草取りをしてもらいました。そしたら隣のさつまいも畑では背中にも噴霧器を背負い、せっせと除草剤をまいていました。私達は、鎌を持って手で草の始末をしていたのです。片方は手仕事での除草で、片方は薬剤を使っただけの除草です。何とも対照的な作業風景でした。

お茶の時間にその娘さん達が「隣では除草剤をかけてますが、こちらに飛んでこないですか」「除草剤を使うと草が枯れ上がってなにか不自然ですね」とかいう。ともかく畑が珍しい彼女たちにとっては何でも興味がわき、かつ珍しいのでしょう。

農を嫌う時代から楽しみにする人たちも出てきたようです。日本の若者もそうですが台湾やアメリカ、フランス、ドイツなど各国から来る青年達もみな一様に「面白かった!」と言うのです。何なのだろうか?と思います。

お金を求めたり、競争に明け暮れる世相が世界的な流れに嫌気がさして「自然界の中で、自然を感じて生きたい」という本能的な欲求かも知れません。

今回は思いつきの雑感です。

合掌 2013年 7月

農家のお母さんレシピ♪～トマトカレー～

【トマトカレーのつくり方】

1. トマトは湯むきし、ざく切りにしておく。
(4人分なら大玉2つ程度)
2. 玉ねぎ、人参、じゃがいも等の野菜を炒める。
3. 水の代わりに、ざく切したトマトを加える。
煮えたら火を止めルーを入れ溶かし、少々煮込む。

水分はトマトのみ!の夏ならではのカレーです(なお)



大竹家の智恵子さんに教わりました。夏を乗り切る爽やかなメニューです。

旬の野菜たち♪

今年は雨が少なく、土の乾燥が気になります。そんな日照りにも負けずに野菜も草も大盛です。今回は、畑の写真と共にご紹介します。

夏の暑さに負けないように、おかげさま農場の元気な野菜たちをたくさん食べてください)^(つや)



にんじん収穫中(山倉さん親子)



なすです(林さん)



ピーマン 肉厚です(石上さん)



南瓜の草をとる研修生 & ウファーさんたち(高柳さん)



南瓜できはじめました(高柳家あゆみさん)



ごぼうの葉 まだまだかわいいです(田谷さん)



栄養がたっぷりモロヘイヤ(佐藤さん)



旬の短い枝豆 おつまみやおやつに(諸岡さん)



真っ赤なミニトマト(高柳さん)

旬の野菜:人参、じゃが芋、さつまいも・長ネギ(残りわずか)、小ねぎ、なす、トマト、ミニトマト、ピーマン、キュウリ、ししとう、にんにく、葉生姜、枝豆、モロヘイヤ、空芯菜、小玉スイカ、南瓜です。その他にもお米、ひまわり油などもあります。

「おかげさま農場の生産者紹介」

今月は、ご存知おかげさま農場代表の高柳さんと実直な大竹さんの2人をご紹介します♪
少しでも、生産者1人1人の人柄や野菜作りの気持ちが伝われば嬉しいです。

農ひとすじ300年 たえこ ～高柳功さん(63歳)、妙子さん、あゆみさん～

今回は、夏野菜を多く栽培している高柳さん宅を取材させていただきました。高柳家は、わかるだけでも300年以上農業を続けてきた家です。おなじみのおかげさま農場代表の功さん、奥さんの妙子さん、娘の原あゆみさん3人で田んぼ4町歩(約12,000坪)、畑2町歩(約6,000坪)をしています。そして息子の武治さんも畑仕事を始め今は4人の家族労働です。それに、研修生の田頭美穂さん、時々海外から様々な年齢と国から来るウーファーさん(農業ホームステイ)も畑仕事を手伝っています。いつも賑やかです。

栽培作物は、米、麦、大豆、ごま、菜種、ひまわり、じゃが芋、きゅうり、ミニトマト、モロヘイヤ、空芯菜、ナス、オクラ、スナップエンドウ、サニーレタス、カブ、三浦大根などたくさんあります。

〈思いを形に25年〉

おかげさま農場を立ち上げて早25年が過ぎました。「あっという間だったなあ～」としみじみ功さん。おかげさま農場を立ち上げる前に、以前、大栄直販会と一緒にやっていた仲間の農家さんたちに相談しました。おかげさま新聞創刊号で紹介した林さんと共に、皆を誘ったり、それまで知り合いではないけれども協力してくれる農家さんを誘ったり。

高柳さん、林さん、高木さんがそれぞれ、生産者の畑を見回り、出荷の調整。皆で出荷所にて栽培の出来、不出来を議論しあう日々。「俺、一人じゃできなかったよ。」と言います。

当時は、農業と化学肥料を使う「近代農業」を推進している時代。一方で、公害などの環境問題やレイチェル・カーソン著の「沈黙の春」、有吉佐和子著の「複合汚染」が大きく取り上げられ、高柳さん達も「農業を使って良いのか。」と考えさせられたそうです。

「農業の歴史は、日本では約二千年以上続いている。農業の歴史は、たかが50年ほど。農業を使わない方が自然だよ。」と功さん。

思いを形にしたいというロマンたっぷりのおかげさま農場です。今後は、若い世代の成長がたのしみだそうです。

〈アスリート並みの体脂肪〉

功さんは、おかげさま農場の仕事が多いため、高柳家の畑は、奥さんの妙子さんとあゆみさんがメインで行っています。「一緒に仕事ができなくて淋しい」と今でも素直で愛らしい妙子さん。出荷は、あゆみさんが担当しています。あゆみさんは、料理教室に通うほど熱心です。二人とも朝早くから夜遅くまで仕事をしています。妙子さんは、その昔、満月の夜に田んぼの草取りに出かけて行ってしまうほど。そして体脂肪率が5%。そんなお2人にはいつもお世話になっています。とても穏やかでやさしいです。(つや)

畑の聖職者 ～大竹和男さん(51)、智恵子さん～

大竹家は、和男さんのお祖母さん、お母さん、妻の智恵子さん、成人された息子さんと娘さんの4世代6人暮らしです。

お祖母さんとお母さんは現在は家の周りの草取りなどをしてくれているようで、仕事は主に夫婦2人でやっています。

畑の面積は1町4反歩(約4,200坪)。1反歩強(300坪ほど)のビニールハウスと6反歩(1,800坪ほど)の田んぼもあります。主に作っているのはトマト、トウモロコシ、人参、ほうれん草、春菊、チンゲン菜、キャベツです。

今年のトマトは全部で2千本、トウモロコシはなんと1万本も作付けました。ところが去年あたりからハクビシンなどの獣害が酷く、畑に車を停めて番をする日々。寝不足になったと辛そうでした。

〈大きな家の小さな跡取り息子〉

取材に訪れると、トマトの茂った大きなビニールハウスの先に立派な門構えの大竹家がありました。築140～150年程になるという大きな大きな伝統的日本家屋です。

小学校5年生の時に父を亡くされた和男さんは、小さな頃からずっと家の仕事を手伝って来ました。機械が大好きで直すのも得意だったため、小学校にいる時に家から連絡がきて故障した農作業用の機械の修理に戻ることもあったそうです。

21年前におかげさま農場に参加するまで、大竹家は野菜の他にガーベラなどの花を作って出荷していました。現在トマトがある広大なビニールハウスはその頃の名残りです。女性ばかりになった大竹家では軽くて運びやすいものを作った方が良いだろうと、和男さんが22歳で結婚した時に始めた花作りでした。

大竹家の集落には福泉寺というお寺があります。当時住職をされていた無着成恭さん(やまびこ学校などの著書があります)の話を聴きに通っていた和男さんは、次第にたくさんの農薬を使っての生花栽培に疑問を持つようになったと言います。おかげさま農場に加わることになったのも、その無着成恭さんご夫妻の口添えででした。

〈人間は耕すだけ〉

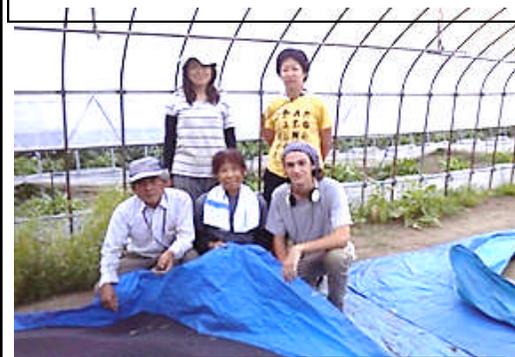
「私が作りました、なんて言えないよな。」と、和男さんは言います。花も野菜も、勝手にできるのだと。人間には、葉っぱ一枚といえども作り出すことはできないのだと。農業を継いでからずっと考え心にとめていることなのだそうです。

「ひとにできるのは、せいぜい耕して種をまくくらいのもの。」謙虚で実直な人柄が伝わります。

仕事のなかで苦手なのは出荷作業。時間に追われるのがイヤなのだそうです。好きなのは、作っている過程全般。難しいとき、続ける難しさを感じる時にも楽しいのだそうです。

話をきいていて、修行僧のようだなと思いました。そういえば畑と家をつなぐ雑木林の小道を案内してくれながら、「農業は聖職だと思う…。」という話も。「医者や教師みたいに、農業は聖職だと思う。聖職はお金儲けちゃダメなんだよな。」ちょっと笑ってそう言う姿が爽やかでした。

(なお)



ブルーシートの菜種・油にします



肥料置き場のハウスのはり直し



お孫さんと門の前で



トマトは2千本も植わっています